

私の留学体験記

広島県立呉宮原高等学校 1年 津田 京佳 (つだ きょうか)

留学期間 平成30年3月8日～平成30年3月21日 (14日間)

留学先 マウントアナンハイスクール (シドニー, オーストラリア)

私のオーストラリア研修では楽しいことばかりではなく、心残りなことも多くありました。

ホームステイでは、ホストファミリーはソフトボールやビーチ、遊園地など様々なところに連れて行ってくれました。しかし、ホームステイ初日から3日目までの間、緊張からあまり積極的にコミュニケーションをとることができませんでした。もっと初めから積極的にコミュニケーションを自分からとりに行っておけばよかったと今でもそう思います。コミュニケーションをとる上で大切なことは、目を合わせて相手と話をすることだと思いました。これは当たり前のことのように思えてとても難しいことでした。目を合わせようと思っても普段あまり意識して人と目を合わせて話すことは少ないので、気が付いたら目をそらしていたり、目を合わせ続けることに抵抗を感じ思わずそらしてしまったりしました。相手と目を合わせて会話をしていると目元からわかる情報は思っているよりも多く、“目は口ほどにものを言う”ということわざは本当のことであると強く感じました。

学校では、バディの選択している授業と一緒に参加しました。日本の授業は生徒が“受ける授業”なのに対し、オーストラリアでの授業は生徒が“参加する授業”という感じが強く印象に残りました。授業中、現地校の生徒は生徒一人一人が自分独自の意見を持っていて、意見を求められたときそれを躊躇うことなく発表していました。私は授業中に意見を聞かれて、戸惑ってしまい自分の意見をきちんと発表できませんでした。日本の授業でも私を含めほとんどの生徒が授業中に意見を求められたとき、自分の意見を言うことに躊躇い、発言することができないと思います。しかしそれは外国では、自分の意見を言わないということは“何も考えていない”また“考えるつもりがない”と捉えられます。次に外国に行く時までには、自分の意見をきちんと相手に伝えられるようになっていたいと思います。



この研修の中で、私たちが外国の異なる言語や文化、習慣の中に身を置くことによって得た経験はかけがえのないものでした。このようなすばらしい経験をする事ができたのは、研修に参加したいという私の意見に賛成し、背中を押してくれた両親やこの研修を企画してくださった先生方、旅行会社の方々のおかげです。この経験を忘れることなく夢に向かって進路を進めていきたいと思います。本当にありがとうございました。